伊勢物語新釋

二

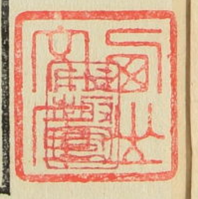
特別
イ4
3163
203(2)

貴
14
3163
203(2)

伊勢物語新釋二十巻

十二段

むかしまさごなる男ありける女のもとよりとてやがてだう
し新こそよけれバ人の子なれども
ものいとかしこくおもひてあるを
ふかくさけれども
本をはのがれていとまぢかくいにしへのしるしなるべし
ゝ云ハ高のやとハたゞえんなくやとしふる中なれども
うちとけてこゝろよからぬ
ゝ云ハ高のやとハたゞえんなくやとしふる中なれども



人さぶらひなどのまゐりくすぐるもあり
きをきゝびとの日石をよ　[illegible]
さ夏をそへ丸竹しうかうちやるとさぶらわるべてまたんのは
とハ発ぶしあをとかうちあハ日石よるあひたくるをとかのそう
したまくるまを今ぶくへはり
うそかたはよむざしけづとそうてかうぶてかちまをもきびあわる
ふれぶらふやこようか女
晴蛉廿日記ようそづみよ西ようをあるを思てうよられハむざし
よるとかうぶたをそれるをのそうけてはりてるこ心を宮んてむざ
しぶそれ流よかるくんひざし流ハ名物うて伝流日ゆと懐改参

殿のうぶくまそおもをびまわるハ京とあのうはみのかうし
苦ハ今の女かやうよたやひうれ様でわるひなぶ久しくうそ和と
づれさぶるしたるべし
むぶしあぶとけひぶふかあてたのむよハとうぬをてうとうをを
絶ハかるをものゆうをようけてうのむうをふいうんちよむざしあぶ
みうハハうるくうをびみとを日を中みびぶてうをそひうつわ格くうを
をるようをわるをぶびしうあるをいうをやうみうをよハへ
里秋作をみよけうもあるはうてうれうやうく然のまは意よハあるび
古意の候ひぶをうをあ一それを之ハ新あづうをぶうてうをしく
わるをうう又あうしむのおうをうやうをれどけうをしちぶうを思ハば

さびしかりけるあるじにすまひたるをとこ
らしのようにもてなすをとこ
ざるをかしくもあれとすほうと云
○我三月吉車より思ふ人ゆかハうろ〳〵後ろ
ゆかりてちとくかなつたのしハ俗ゆるみるもろく
ゆくをそれてなんたくぶるもちろ〳〵
京の女わすれ申よけかなをえてにぞ女わかぶぼそく
ふるんと思ひやるかてうれしかたぐるもちまく
らくだいとをゝみがうむ世ざ絶えをりやく〳〵ぬらん
もいてつぶそなくいへぐうぬさ〳〵ふとうるぐつ〳〵

十三段

むかし男みちのくにすまひけるあるじ京
の人ハかづらにやせびそんをもとめるんなんけり
ゆくゝ女
ゆくゝみちのくのふかくみちの国をゆけどもゆけどもはてしなきものを
そのはるかなるほどをいとかなしうおもほえけれ
たゝもとゆくまでハゆくまでなるまてをもとハ
なをうしなふ恵にしるべしハ来るそなるべうをけるをむとどろ
山をみな恵をうしなふ呼の海わるの結を云書よりたぐ

しのぶれハんとうハと解べしとそ侍るとてよくそそ
一その意ハなまじひよ意にしまんなかハいるべなるべくけ
るまぢめあひぢんとをいてくかいこハのもそでかくてもん
をちぢうるさきのなるやをようやそいつる
ふるとくぞ知れびるとうまれ
うるたくられて人うはおなびるをきるる文く
さびにあまれるやおもんいさて行ようく枝うくるよれば女
ろわびてなのやるまるる女ともるびるとうそなるけふ
かくまた人きれまるまで心のとろ物びるあるるまで枝うくなてかく
るく諸侯ろ未拾花の意ばひさまるるぎるようく物ろうまるをかち

しるそぞ式ア枝ろうん
枝もろ事ぞまるるよさあ物んるるけろまるるるるせな残やうる
一そ枝をハ枝もあけまで桃ようまるしろ物んるろ花をあいつも
ゆるかハまやくゆるて文をくしやうるるかをんるるくるけのく
るるやろくいるるやと思ろるあハ要義おようるいくびをいるるやくるる
さるうるるるるるるるるるる残ちびめるて枝るて賀成季賀縣を
腐るやるて庭をるるとるろくいるるるんるいるまるるほるくびるのぬぐ
いるく方法拾きるるやるうるるるるこそあんおもるぼるぬるうるるるよな
しるるれるるるるるると因例るうけハ庭をの名るて枝代のるるええ
ゆるきるハ桃やしまるれハ日本書紀ヨ豫のまとしるるるて行るよ

[illegible]
仕友宮伴州五郎[illegible]人の江戸より[illegible]ことをけるを此方ハ雞の肉
[illegible]
[illegible]
友平田篤胤ぞ[illegible]の[illegible]已ぞうれしゐの出羽の秋田はあるうてハ
[illegible]
其盃の名をきつ[illegible]老人のをかぐるよ世さつ芳ハもしなべく
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いつる[illegible]ぞしき証ある考なるよつ[illegible]なほ考に合うと
雞の肉[illegible]よくみてもそ[illegible]ふを雞の腹をあらひて
冷せど其手止むものゝ（腹の血をきれ形なわるぞ）[illegible]ハ[illegible]沒[illegible]なり
[illegible]
中へ物を沒[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

の[illegible]を更義おほ[illegible]わりをかぐやどのあるハそのゑみさるを
おもあり[illegible]そ水槽を彫くゝりて例を日本書紀皇極天皇
[illegible]毎門置盛水舟一木釣數十以備火災といふあ[illegible]
○[illegible]吉本より[illegible]ん[illegible]をてよかにあやまりをかぐ
しさんなんとする古写本をいろと伝友[illegible]おこをれさるを狂歌
は消をきえなでいふ[illegible]ばかりなるやうなるばかり青
おもよりきゝをみまでいふ[illegible]ばをあけてゝ[illegible]
てをとうをもめゝ[illegible]をうれをぬをれぢあそいろまる
といふるよ男京へなんいふるを
[illegible]ふをかゝハをしてをうく思いまゝ[illegible]をきんさ[illegible]

男ハ[illegible]ねでうゝ京へいかゝをくさゝてちをよくうゝ
る文なゝをいふをハ契仲ちゝしハ思ひまゝ[illegible]狂歌の後ろく文
[illegible]をむ事わ
○いふる吉本より[illegible]ぐ[illegible]ちを記者の[illegible]ハ[illegible]
なゝ[illegible]ゝ[illegible]詞のこゝを[illegible]文例上の[illegible]
[illegible]たゝを[illegible]ゝ古意の後ハ[illegible]
くわ原の[illegible]ハ[illegible]ならハ[illegible]
みち[illegible]の事なれハそ[illegible]国の栗原形あ[illegible]
名高き松の[illegible]ゝ[illegible]ゝ人[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]の[illegible]

らめやもとよさもえぬものをとぶらふ女めくらし
くいつくしたまへくすり給野の姫君よまをすこしの
くすりなりにるもの
といつくれだるろうびて思ひうしくそいふをすまは
あるひのれのがめさるをとでさしらでいたるひて
ぎよいつをよろうびて世男我を思ひうしくを云稀ようをう
ぎくみれうびて女めかくのおもてるかくしくさしま
て学ようみぐちよ我ほめすてるをたいたきうぐいうる
かるをけしわぐくもいつを次の陸乃ちういある女のさ乃式
いつぐちしくえをんをてく

○思ひうしくそ塗本よきぐいうしくをうしあや
十四段 めくをくうれのかちちうく作ろう
むしみちれ思うてなてくさられき人乃むきあるかうし
ぎうう
なてくちれき人を俗えるまんでもなれくをえをうまるまく
教のうしあるうそいろあるとひのかよ我の絵乃すぐれることい
きんをてし
○むすめ塗本よきぐ人のえをうを本ハむすのぐとゆをきる
あやしうさぐうこているぐれ女よハあしぐえをれで
いるやしうとハいるれゆをうけんとあやみうをいてさやうた

男はよろこびてあるべきなれども女のうちうけぞうはふてきもめてんとすることをいつさいふのくるしみして男はけがさるよしぶるいてあいてハはるでも来ぬしはわるぶるなれどあるべきそもそもん中ハさるれるんとうるいつるまはんだらしうゆうるんをしくうるれてよういはるまえてその公乃おくれてをぐるまれば

うるるんとてうるみておるるく

○女よハ金本ゑまるべく他ぞられるる

きのべ山ゑびてかるるをもれ人めるるれおくもえ新べく

伝吏山ハみちのべてきのびてるるんるるよいうてか

よるもたくなべ山の孫伝ゑてきるてなる何ん一それをハ人の

ムハきのびてかるるるるるるべ人てんのおるとるるべるるべ

るべ人てようハある人を公のおくのべよるとるるるるるわる

女るべるなく考べるるるるるる

なるべきなるよつさにつたをたゞてえさしおぬなるべしさて又こちらかく
をえびすおもえよしハ日本書紀の齊明天皇紀巻之蝦夷の事を、
つゝ示す國首東北さて類有三種遠者名都加留次者麁蝦夷近
者名熟蝦夷えゝうゝ〳〵て三種の夷をも都加留ゝ名ゝ
よられあらしかて陸奥ハ夷のすゝ名ゝ又元慶五年五月三日授
陸奥蝦夷譯語外從八位下物部斯波連永野外從五位下ゝ
事三代實録よゝうゝられハ世初代の時代ゝちれはなゝかく
通事ハ官人のゝゝうゝハ其れを陸奥ハ夷ゝほゝれハく
○えびゝ和ゝ塗本ゝきゝ純本ゝえゝ心ゝちるハさゝろゝと
こゝろゝうゝ〳〵ゝやゝあゝくゝまゝく仰ゝ

十五段

昔紀の有常ゝゝ人ゝうゝ三代の帝ゝつゝうゝ五ゝて
世ゝあゝいゝまゝぶゝのゝちハ世ゝかゝを時ゝ仕ゝうゝけゝさゝ
三代の帝ゝを仁明文德清和の御三代といゝて世ゝうゝ時
ゝうゝハ拾遺往斷なる長恨哥傳の時移事去樂盡悲來
ゝゝをゝゝをゝゝて中苔ゝはゝをゝゝゝ

世の常の人よりもすぐれたる人こそ
人ごころ心うつくしうあてやかなるものとおもひそこなひ人こそ似す
よからぬこころいんをなくまづしくてもおごりたるまし
ごとく世の常なるもきらひ
ものうらうとく心のさかしきをいとあてやかなるいとおそろしく
なるものと人をまどはかしたる人は似ぬ人をもてはやし
ものなしとかすなるまことなるものをそんとするやうなるものをきらひ
日本書紀仁徳天皇の御世の話のまとまりたるみちの三代實
録の此人のうるはしき性清警有儀望ふかくとうしかくるなる
ごとく人のもてあそぶ世の常のたのしみ

なるものをもてはやすこそ
ものとむしのまるまであるこさるる人よりたをしとおもひて人の形ばかり
らんかをかしくしき事のみをもひかれる
○よのもてはやしたるひんもれく塗車よりてくふまづくても塗去
二本よりまづ
らしはあいなかりけるえんやうしうこさるなきてつひに死よなりて
なるものをもてぶちて死よなわるよりでがたくゆく
やうしくはかりしふくとこそあれ泥雖をてぬるとうでをのもやく
まそまづくまづ丈書の御中のうとくなる事をむしはとこさるるそい
ひあるひいんやうしくうとくなりてつひに死よなりてこそ此あひだる

はさみ〳〵のるすぞうろうんさぶきそかゝる文ゝ乃ゝんすみそよ
うろ〳〵ゆどゆ十ゝあまゝ安なれバさとゝくもうらぶゝく婦の尼ゝなり
てあゝをたゝるゆゝしらもろゝてそゝくいゝゝゝ
○うゝゝなゝうゝにゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとはれもせずいなさけつよき人のみるべきあらまほしきものなれば戸
うちもしーろるべくにてよるべきものなれどそのまでとそこ心とおもひてさとこと
るにまづ〜ちくのうとをとひやりてとうそくてよるべきものなりおもふ
なりまでとそこ思ひやりおもひやりよりはるばるきてもてる文く
古意より尼の書れ給ふ朱いきてるじたりしてやりつる事とおも
ひてる文くちやうよいきれてるいたづらおもてるいはるまるよりびび事に
さる云くそのよーいまづみ事にこそ今はあるよりこそ〜
○ちれなどぢち塗本よりきづ
年だるも十そそ四つを弱よりけるといろびあるはなきあるうん
十そそ八十ちいてくちらいてとつづてそそらいるるる今文よ

おほーたのときあるうんいまのみよーたるうんのきくさて一そはきを
ハ年ぶるも十ちいてそつ経よりけるをきーてそのいらびれ月はハ
ぶりもれくきさるるくそのみはた月よりうちるいさ月〜はる
あるてほ日の見ろいくらびうきをみるるるくさみんとらつるきるさ
て又をれをなるーだものおそるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
ろーいるれるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
ろ古意よりいまるのあーるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
いるくぶるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
いるるるる程断もいるれるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
をすぶれてるるーるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

かくのごとくにやうやうとかれば、ぶるぶるとふるへて
ちからなく、ちからなくよろこびなげくやうとやうとさま
○よろこびよをへて　塗本ようてくこの　古本ようてこうるまま
て古をよみたくいひてちからぞくをちからなれば必をそこあるべき侍
なりといさかふ　そこ　泡いやしくなるゑ上は文よりあるものの
でおろうてもるをびきこ、分は事のみをてよ
ちからなれば世あり方ねれうぐ〜こそ考ぐみ〜にをわ学を
一をよんこれやうおさく侍るえれね衣きゑんうをく〜さいせれそのの
ことをええびくよれ衣なれぐうぐこそ世るすぐれるえぐちれて
まうれるまてるよたちを命なうふゑんえ考ぐみ事ゑをひ

ゑををのるの　そて有ぐちれ料　ようるふくる衣を、ちろうれぞ
ちうさるをを古意よ尼のをうぞくを、ちろうるなんといをわるる
たぐうさてをうくのこ、はそ、衣のるのくまうれるふ衣さ
ぐもよれ人ゑ、ようてうぐてまるぞのちれぐんっいぞるいをんむ
う〜、男女の常よをる衣、かようそ〜てをちるうをちるみあぐ
ちれ衣を有常れ有ちるうをけうの解衣を、ゑるうを
脂断の後、ふうれひぐるくまぐゑのね衣を尼のうちれ衣なれば
ゑくて、ふうとをる、例のうるれるをつけをくているれ人のうろ
きうをゑ又ゑるを、ふ有常れぐうをうるぐうをるをいる
ゑぐをいうをたぐうむうの文をみをまわ侍東よまうなを、ふ。

てさせまくをなるとそきくんのうんらんらんらんを
さるをまるるるるるるるやハあるべさ
○こゝ〳〵ハ塗本よりあめさ
ろうらびよたへうるるてメ
又ゝゝまるみてやるん
○たへうるて　塗本よりたべ
秋やるる歳やまぐるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雪のあしたにあらんやとおもふ人ぞあるべき
それをこそわかなにぶるまひとはいふなれ
ちはんかるべくそれば その人もえんぎとさとるべし

十七段

昔なほ人ありける女はらからなる男ちかう有りけり 女方よりむこになわ
ばしたりつらんとて菓子をものうろへるをとりて男女をくやる
すると人あることゝ ちろはるる人あれてとくらのうねをふみえんとそ
と男女をとらんとてんおもひ 知章 知行の本書をトられもれば よいすれいち男のとあ
きどもなれども野和語の文はちろまるさそ女のうつろひ生て
分よみておろして男女人ありるそ ぶにまるる女のきわざくし
○塗本よいきくはをえと梅をわてやるとうれどそ はまつ〜

紅ゝ梅をいづ〜白雪の枝をとゝ小ふ所うるもんゆ
うろへるを白れくはあるをそれまぶ所をの紅ぶそれよそへてれもん
ゆをいへるん一そはをハ白菊のをもうをろひてハ紅よりほをい
ふるのなるがそれをいづ〜ぶ白雪はは枝をわもほるよるれ
かをええて紅のうほへるをハえるぬるへるんさて毛吉のむんや
さくるそれをはるんをいづ〜ぶはやれえるぶるさをとをつて
きくすう〜うろひるをさくまてぶはうんかくいひやるをく〜
よいぶはをそのへとえんんとする〜わざくあほふも毛はうつて
くえゆ紙いえ方ゆ毛の方よつぶむ和へる天をはるのれれば
いづるをいづるぶをるをくはをんと問をるをうを

[illegible]たぐり土佐日記のごとあるものとわきまへつかはまつるべくを
いづくとかぞかの[illegible]ちとよめるもいづくぞとかこそたかず
[illegible]ハ古事記ハ折竹登遠ゝ登遠ゝ迩[illegible]
又万葉集ハ白杜(シラカシ)枝毋(エダモト)等乎ゝふゝ[illegible]ハ或ハ枝毛多(エダモタ)
和多(ワタ)和ゝあゝていよゝ[illegible]枝もゝ[illegible]枝もゝわゝ[illegible]
男[illegible]ばゝ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ようにもむを又
[illegible]ばゝ[illegible]ハ[illegible]
おゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]
袖ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]
いゝ[illegible]ゝ[illegible]
○白雲ハ塗本ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]
塗古二本にゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
十八段
昔男ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]

これ老人の小れ方附カラやつくを男みてうくそもかをよ新ゞ
不なれゞとハつ〳〵古を拾遺の後をよわろ〳〵ゞゞちハそろてく
よろ〳〵紀女房庶をいつくく帚本者につふくふるゞゞちかをくある
もつくつくの中ふすらくろ〳〵れ女房とゞもちふくまくくたて
世ハくるよかくるゆゑよ之ゆつきそ之ゆゑ紙つく
○あひ〳〵をて 初本よ〳〵たゞく ひくものみをあひくくゞ
塗本よ志ゞ

天雲ゝ之ゝ之ゝ人のかゝゆくちひくゞふ之よハ之ゆゑものゝう
ひくを之ハ遠くよゝそゝ之ゝゆゑものゝれゞゝゝくく松詞なをとゝ
ゝなくくよゝひゝゞけくくく一そゝ之ゝ天をゝやうによゝ外をゝ

人のかゝゆくゝゝゝれゝゝゞゞかゝれゝて之ゝえぬゝゝふをかゝゞゞゝとゝれ
かゝよ之ゝゝゝ之ゝゆゝゝゝのゝゞゞゝのくく
とよゝわゝゝれを男くくしく
ゆゝれくくわゝゝくゝゝくくくくくわゞゞゝくくゝ山の風をやくく
女の方に男ゝゝゝふくくくれゞゞすれくくちゝゝにゝくくくくくくわくくを
ふゝくくくくくく

[illegible]

記者の詞

○塗本よりくはしくあるふしもあり

十九段

昔男やもめとにあるを女をあてがひてこひよばわりてはるばるとこ[illegible]

[illegible]

○勢語新釈二　○二十

[illegible]

奈良ゆきよりやうやうかうさとにかよひけるを

をりしよりはるばるとこの[illegible]

あるをんなをとこ[illegible]

つくるゆゑをきわもとゝはらの文法入入てれ本のるり和名

抄ヨ雞冠木加倍天カ木雞頭樹加比留提カ木とはれども此ふたを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

でんをきゝきるぬれしてかくちそとけるとひおこせてきそはんけう
つろひうそれまうしまやけんちをみて八さやうけんとふえさ
つれいつのそにうろくもけつはぬんあやしにくきぐ里よ八まと
いつるかく社きるゆえるようをといへるく狂歌よ夷八本けそのちぎ
くなれバちくんけつるけたくをえくちくへるえ伊のうけまるよん
えゐつけをへえく

○京よつれて　吉本よりぐ

二十段

むうし男女をかしふく思ひうしてこゝんなるわそをさるをいづあう
えんいさうれるるゆるつけて世けゆ我うしとふひてまくいあんとあな
ひつかるうをとなんようそをのようかをうつけるる

かしちくハをくをえを主人古まるえてしをれふをくとようわくるそ
れバぢちんなしとハふひうをひんのかようけまれとゝさるぢいぐ
けうえんいうれるゆえうあうんをけ老けうづいへるゆくすべて男女の中
のあしくなるハちとんあるようおこうるのなれバん世の中ハ男女けゆ
をいつをものようかをつるとハ女のをるホのかべさうじうけとのようかをけた
うれるべしまをいみしあふて夫のみうしゆうるわづんさるハ恨ことと
ひのこしなるうなれバん事ゑ侯の幸いゆをもうるるひなんようる
けうをけでんのかべる伊ゆの侯けわうあれどうひもをしあをちしけをふく
いつうをとうをけつるるうけるゆ話よえをうおもうをんべし
○いづけうけん　初なよちづく　いつるるゆあうんをるなハわうし

生ていなんとも知ひて　知本にしるべく

いでゝいれバんゝゝゝ

てくわいるゝ

○うちかさて　塗ち二本ヨもゝみゞ

男ゝうしたの世ちうゝわゝ　目とゞぐゞちぐゞうで　ゐやすゝ

ゞちれをハあちゝの年目をゞぐゞちぐゞうでわるやすゝいとゞえ

やうゝちぐゞてうそあゝつゞにかゝるゞているゞハゞゝうしをおさ丈姉

れ中ゝうゝちゝつるゝゞぐゞまちやゝるゝるゝゝゝうゝ古をよゞ何

を地のまゝちゝるゝゝまれゝるゝゝひゞゐゝゝ比ゝあゝゝゝそゝゝゝ

ゐやゝのやゝをれゝうゝゝゝるてゐをゝゝ古ほよゞ身ゞゝうゝ

るゝちゝうゝよゞけるゝゝ上の白にれゝゐゝまゝしゝえゝ

といひてなゞめをゝう

おゞめゝちゝゝハ空をうゝちゝゞめゝちゝゝうゝそのゐゝゝさゝちゝうゝられゝゝうゝ

よゝゝうゝうゝをゝひゝゝうゝゞゞしゝうゝちゝゞめゝうゝまゝうゝゝみゝまゝゝ

人をゝうゝさゝ思ゝひやゝすゝうゝんゝをゝうゝたゝうゝゞげゝよゝゝいゝでゝゝみゝえゝた

ゝれゝをゝ女ゝハゝちゝゝうゝをゝちゝひやゝちゝんゝいゝうゝゞゞふゝハゝ女のゝうゝそゝひの伊よ

ゝゝゝゝゝゝゝゝえゝてゝわゝゝうゝまゝゝゐゝをゝゝゝゝうゝゝハゝ女ゝゝうゝちゝよゝゝかゝる

ゝのゝうゝそゝちゝハゝ女のゝうゝちゝひゝをゝゝゝゝてゝゝゝわゝゝうゝまゝゝゐゝゝゝとゝうゝひゝゝと

ゝしゝたゝうゝ女のゝかゝれゝてゝえゝゝゝゞ伊よゝのゝとゝゝでゝゝえゝてゝとゝゝいゝうゝ注断

古意よ女のゝうゝちゝを男ゝゆゝうゝよ面ゝゝえゝゆゝうゝにゝうゝうゝゝうゝハゝたゞゞ

ゝをゝちゝやゝうゝうゝゞゞ人ゝハゝさゝゞゞゝえゝゝうゝゝゝとゝうゝゞゞゞゝうゝ人ゝ詞ふゝ

ゝうゝうゝてゝよゝとゝうゝもゝちゝうゝよゝまゝゞゞゝうゝ　さゝゞゞゝなゝうゝ腔断よゝう

ざわ〻拾植おの説ぞうてそろ〻つかそれ

○いで〻塗本よりそ〻

此ぬぐいさ〻くなりて移んでわびてあやあらけんこひおこせる所

ちりたつさうふいろびやちいえぐさでいでいあしうどもん相ちらり

てハやう〻くちやくちいなりて夫のびろ〻しやまるとしれちてども

さもちどれバまけじうしひよちてつれどいと久しくあうてた

云云とふをなり移んでわひて八條えよちくうひてとこをなう

今ひとつわとちて草の種をぶるくのちろよはちびもがま

一そのをかくわれていをものごとくあい住るるハまうずとちあ

て君のうふをうをちるやうになりうもちはしろ〻つうんそれをわうれ

草まそしれて〻種ひくなどひくうそいうにおしれくびよ八條説よ

あうちとちこをこ此ぶそいづをのほもえむげるはしくハあうねど

ぶるのをとちれえびしておろそ〻ろ

う へ〻

わすれ草うかやだよきくうものわうバ思ひうと八ちうりあさし

一そ此をそ〻ろ〻ふそれびぶくよわとをまは種をまちびもぶれ

いきそれどそれハふびうわそれ草をうふハあしたびやなうびそれびハ

あうまびうもちやて結ろ〻ふるわすれ草をうふうろやなわうを

きうろほしさびうてきくうものろくで結なうるうもそれびをちひく

とちうりあさしくをこ八萱草忘憂ヲ文選養生論詰

事はあるてきとくるようにかはる我下ひもとつきれどくいひん
ぞうにもいをわすれんそすまるわざるまじんかぞうにさまじばるよく
てみをつきさいえるもこそくさくるものあるべどいつをそうろうほくもひ
てこそ詞なるまもよくかまつりをを古ほどもたいひどそるるなるい
て古意狂断るもかるれ単ばうをなるるきるでみもいるるとしき
とくるをよとけるが自地のたびいそくしいたびをくしねとこをを
きるもきれましるるべきるいるるやうなるれどびて
れるをるるなどをのしるをくこちはしわざるもおぼるべをみるな
る説まぞいるるるは
又くいるるしようるをよいひるうて男

やうはまるわてのをくけのまるそよむべし古ようは歳ようけ
なるいるさばのもといいるも書ようるるそるれさばいるいるく
あるしようけるいるるとは女はあやるいるるるゆえは男れんを
るると男をいさるるるるるにるるるもるくいるし女なれば又さや
うはるるやあるんと女のんをるるるにあるるるはるるるかるみ
にうべをるるるいるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
しるんのるるるいるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるはまぐ男れるは女のるるざるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるんと思るんれるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
一首のるるるるるるる事はるけるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]ん[illegible]のうぶひよりまうおとがぐされでわれてあり一時
よりもたちてをのれ[illegible]くさるハあひそへハ思ひのまにゆえ
にて捨植おゐ[illegible]とけるやうハ大うるよろ[illegible]ぎさふあらぐべて
いつる狂歌の仮ろうていをわろし
う〳〵し
中そ[illegible]ふあもちるそ[illegible]れあるもれく身はちるるくもなるぬべきれ
一それを夫のうぐひていつる紙うけてちるるよハ君をのこれのを
まるそそそ[illegible]べを[illegible]るるやうにうぐひてぐそんしまいて
ぐるるるもかつてまぐるくで山よりらず中そこにたちつみつ
してぐうふきれあれくはるやうにわをとようかるるれて

命はぬべしとつるん弟のはれくなるとハ死ぬるるくん中をそを
よわうるかるあれをるくを古屋ども中ようつよちひなぐそ
るれあれわるう古を狂歌ようる此ゆれ意味をるれえぐ
○なるぬべきられ 塗本にしるぐふなるにるれをある本ハわし
ようそひられどおのぐ学よなるるふれハうるくなるにるる
とハひひるるでえをとハかくを夫ようぐうるるをるるさようふさひ
るれどさぐれさんをえあるうぐひてをれぐるくを夫婦とるて
を又きふるはるるるるせれいでで中のうるくなるるるるくものぐ
世とハをぐ絵のぐるくを衣ようるて書ようるれをるをハう
○れのぐ学よなるうにるれハ塗本うるぐふなのぐ世をるる本ハわるし

廿一段

葉うばれくてたえふる中なほやわれざわけん女はをうゝ
きれくとゝ詞ハ俗語なれしゝあるべきゝをぬゝをゝえて大ゝハ
たゞゝびゝ人のちゝをゝきれくなゝとゝいゝれてをゝいたしゝかゝきと
しゝきゝのゝてゝそれゝうゝあゝきゝびゝ相垂宴にみやゝおゝれさん
ちゝわゝづゝひてゝいゝるも仏ゝふゝきゝとゝしゝるゝ弱身みをゝうゝび
まゝづゝい給ゝふゝるゝ身ゝを付ゝふゝきゝしゝるゝゆゝえゝいゝなゝきゝわゝどゝう
たゝゝにゝうゝみゝのゝたゝきゝて中ゝ絶ゝゝをゝはゝれくてゝなゝえゝるゝけゝゝと、ハ
ゝゝゝく膳影ゝゝきゝゝくゝゝくゝゝはゝゝるゝゝれくゝなゝえゝゝゝゝんゝとゝゝを古
意ゝゝよゝゝはゝゝきゝるゝゝにゝてゝ絶ゝゝゝゝんゝとゝゝゝれゝゝゝるゝゝなゝどゝゝゝたゝゝて
なゝくゝてゝたゝゝえゝゝゝゝ

よみてけ男ハ女はくるようまぎて番ひとりはまこるれられぐく女
のいびきろうえなれバ戸けてもるぐひるるくともうく狂歌る男ま
ありらそ京をしるみるとをなうとけるハちふれいぐ
○されバよりもひて　塗本るもぐ〳〵いいてもるる事ハうろ〳〵
あひハえで心ひとうるかそ口乃あれなれてあえじとぐわるく
ちをぐるるもひてもぐ〳〵にうはかをぐ
よみてやうたるく一そおをハもぐ光のぐくはひえそハ又よしふ
きるみにうみをて中たるぬべしるみをはひハえぐ〳〵てぐ
ヨ世ふんぐををかして　ありなんしるれぐうみらはくるゆま
くてるくで中語あるはのあれぐと一ぐびハわれ〳〵ぐるかくんの乃

ひるるあひていひうるぐるもれ本ぐ絶じるぐ男ハうるみるれ〳〵ま
ゆをぐハはひるるるるているるはやるるくつなひくはるふはやるハ
恵のれるぐひるぐあるけける
○あひハえで　塗本ゆもるぐ〳〵あひえそハるるかハるる〳〵さそを
くひとををにるれぐ
るそひるれどおの板ひて社るそうゆ〳〵ゆるるの半ども
かぐるひて〳〵
ちるをさもんるていいるるるる　いなと一ぐびハひれどるくるむ
るゆをあるてたえるる中みるれハ男をはひみはは〳〵くみるた
るるてるひぐるをぐそのれいて社るるくるぐめるはれくて

[illegible]

くやしらをいひ出のちはもどりてもやうに事どもをするべしとぞ
くほふ者よりかくいひべきものなれば者よりをひらをもとも
紫のうへてもをぶべきあるべしいひて古意よりいひれば
うへて女のいひて行ることといまれるふることきひごろ
○いひて行よりうまき今うへうまごと
秋の夜の千夜をひとしるなりなどいへば夜しいなどやあく時のけうん
かずかずへてかうよなりてをを人口ちにハ千夜を一夜になさんも
けよハあうざれごんうるよなりてををふるゆゑよ夜を一

[illegible]

うへ
秋のよの千夜をひとしるになりうるも詞のうへてるや峰なん
分のをけるをしいまし
いまし
いうもけれそなんかひるる
一ひとびとなるるふ女のうへてんうへうすればなるべしもとあそ

を八男の女をめづるをなろう

廿二段

むうしみれつわらひしるくのるも

みなうるるしハ狂歌ハ田舎ハ仕来して産業をなしく日本紀

ハ活の字をわらひるるる

なるべしあそびをけをハ俗語よごとくちがいて
ひろがるハおれるあそびあそぶをたゞしよそぢて
ひらぬやうおなりそれどもとくに狂歌の流ハひがごとに男を女
をゝゝハあひてゝるゝごとをされさはるゝそびなれてもひろいしる
人のゝうぬをいつて祝のあつするちくいこと男ハせんとゝ
るまてやのうへ狂歌ゝ男を女をうけひろぬくと言ハたゞつ
○あつそれど 塗去二年よりとゝ えあとちひやゝ男を
らそ 去年にしあつふ ひつするちゝも 塗本にくる
さて去のそれうれをとこのをとうかくなん
ちくあつて井筒ゝけしまろぶ歌ひよゝ歌あひんざるゝふ

つゝみ筒井づつゝハちゝたゝゝゝ同じるとくゝいるゝ
みて月板ゝ月ゝしくゝわするゝくあよあづ屋のまやゝ同例ゝう
月板ゝ月ゝしくゝわするゝくゝわするゝくあづ屋のあづ屋の
ゝゝびさをかゝるたびのハそびめをばゝうちまつみぢ
ちくゝびにゝけくゝかゝているふて按のゝびハつゝふ詞をゝぶ
きて五六句ハきゝべをなゝたるゝ古今ハひとつの結くゝていふハ
昔の今ハゝゝしものゆゝようゝるにきてのるゝ須佐之男
命の詠ゝ句ハ八重ゝれつるそのやくゝれをゝれくゝてのるゝ
なゝ今やつのゝゝひとゝゝのゝもいゝ紙そびめハ袴衣いまとて
じ見の結ゝなびくかゝていくあびゝ多くいゝ一のゝうハのと

まるうんさんたく井筒とハつ井のあぎとをさだていつるう
詞くつ井ハ筒のやうなほりつる井なるべしうけとる詞なるよう
かしこたかみむすびやうおるまよハつ玄雲國造神壽ヨ掛麻久畏岐毛
明御神ニ大八嶋國所知食須天皇命乃玄玄とくつる國造の
大清代いそ人祢まぢするにつやて天皇の伺事に中わうぶを掛
麻久畏岐毛とハつ祝詞考る言にうけて中をかしまたまくとかれこ
つるはけてあをほどけうんと井筒ハいおるべしをうけしと、
ふるうけ橋ふるまちようかしこたるふるつやてひそる個
まて同じまうんまうハ俗語ハおをふるちしたけいらぎぢちん
おひんまうしれさまをしてうけを言くなうにうしまえしく

あひえざるをふるえをうぶひうをうぶひうをあけハみ
づうれえハえをゆをくさてかくひやるハせれなるれハいざ
いをやのうひをうをうるる
○おひよりしま 塗去二本ヨもうぐ あひえざるをうう
塗本による
如くし
くくべちしうう分髪をかうをぬ君なうべしてたまうぶづき
ぬうわ中髪ハ方髪集の方ハ童女波奈理（ツナキハナ）というをおうぐるえ
髪をゆをべされちてうしるたまてうるをえりその比女のなべく
しけるすべしをうをうしるたをれどもれハりをゆひて

つるくゝ童女のハちゝとゆちびをあらてたるくゆゑよ髪のふるひよ
わらはくとふり分ちのふくん又日髙のゆゑをとめるゞふり分髪をゆ
のゆゑとよあるもをとめなるて八わゝてあるゝ時のふり分髪をゆ
ふゆゑゝそもれもまゆちてけるちるゝくさて一首のをハわゝ八ぢち
いづもちもたとくゝべくゝふり分髪をかゝをゐてたるほふなわゝ
元あゝびゝくゝそうわゝなぞうゝむくあんゝくゝ
○なゞべき 塗本ゝたゞゝ あゞべゝさゝるなハゝろゝもを八なゞ
をあゞとうをゝあやまゝるゝれのかゝちゝくけゝてゝもゝくふり分
髪をけゞゆゝゝるゆハけるよいゝる方ゝ系のゆめゞくゝとゝちゝなるて
ゝゝゞゝるゝふて男すゝてなゝるゞゝをけゝゞ外取扱語ふ

此ちゞやゝまゝほゝるゝすくゝゆ塔なるゝなゝる三月ゞゝのう
ちにゝゝさゝゆゝゝるくゝよあゝめれゞ髪けゞゆゝゝをゝゝきちゝやゝれ
うちゝゝゝもゞゞゝゞゝゝゝ

○かく　塗士二女ふるまひ

けて年ごろふるほどよ女のみやなくあつてたようなくふるまひて

おのわざふるまひて八枚のれくなるそもいてみたるくぬをいろ事なれど

世女方枚八あれうれうをわるくふるまひていろいろかでなるれうてい

すあれいふをすべれやうおくいをしたようまれよう

○女の枚なくまうて　塗本ふまるべ

まうをもいろいなくていろんやいそかるれ思高安の郷ふ

いれかるいおいできにるわ

まうをもにまいるを男の枚八まれふなくありてわるれでる

なるわるいをえまべ女の象ふ住てみるいろいふ又女のみやなくま

あたたようれくなるまるに女せんるるれいろ男をるるもにるるひ

なくるふわでもべてあるんやハれやのやうふみれわるひせん

そそ内ふるもいれるるつけてその出れ高安の枚方女をええ考て

いれかるふやうになわるふいるくえすくなるふをはるてるけるいみいへ方

文はめなるふくをべえるるわるるひいるるくめるべめる童男

童女ふわるるていあるふ八るくいるるいるくるるくるかける

文なるるをむいるうるるくなくて古ほるるるるるるいるべ聽

断古をなどみるあぬるれるるるるまべるるるふええふいるる八考

れをいるいておの〳〵るべさ方ふれなんるえるくとべるの住

ふるるけるいるくるいべるのるなくべるるるるるくるくるくてあるん

やうとかくべき文ゝいふひあくとゝ切そなれべ物のわざもえせざるに
こゝかゝるひくを又旧説の外もむれそへ八男れちと女よかゝをえのちゝと
ゆゝしきもつべきすぢるあべさるけしれなしそれ行ゝゝぐんえれ永
んけるゝそもしゝぐもゝといひくるゆまゝべ八ぜんさいの中よかられてゝつぎ
てけるゝすゝんられちわうきゝえねるゆふなるをやれいちぐまづしれを
つゝひてちゝ女よかゝそんゝゝべ匹れまゝうにあゝなんをかゝちゝ女ゝ言
安の物ゝゝまゝるハさふあべとよいゝるべくみれゝわゝひようれてゝを
出ゝゝるゝゆまるゝをもせてる文くさて京めゝなべみれゝわゝゝ
ひといゝるゝをゆをうべひれゝるゝをべゝとハせゝゝくゝく邦あり
しゝおなれべ今れ京ゝれゝるもなは初るなべゝて後ゝをみれゝとハゝ言

なゝ續日本紀ゝ班給難波京宅地ゝたゝる八天平六年ゝゝゆまゝゝく
奈良ゝ都をうつゝされて二十五年の後なるべしゝは難波京ゝゝてゝ
ゝれべゝゝべゝ
ひゝゝれど世ゝとの女あゝゝ男ゝゝれゝるくて出ゝゝゝゝやゝて
ゝれべ男ゝゝんひゝてかゝれゝやゝんゝゝゝひゝゝべひて
さゝけゝべゝさひゝれべゝあゝゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝ出
てゝゝみいゝゝぬハゝゝゝゝみてゝゝゝゝをゝをゝのてみゝゝゝにゝあゝゝ出ゝ
ゝゝるハよひれゝをゝゝせゝゝゝべゝゝていべゝゝゝゝ男ゝゝハゝゝけ
くゝゝ女ゝれべゝんゝべてゝゝべゝゝくゝゝゝぬゝゝゝゝゝゝべれるゆゝれど
もひゝゝゝ思ゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝ

のあらてきたちにうつくしうして生〜やうんとみるやとうぐん
ふわう

○いぐ〜たて〜 塗吉二本よきうえ

ぜんさんの中よりかれみてうれしうちへいるるほそうれで此女
いまようけさうじてうちなどうて
いるるいゆくるるんけさうハ假粧そかをつくるるへ夫のえん
ぬかえそうちうけびくいくちうぶいくぐくしてをるそいと
いとよれ女ぞいろうれさそうちなどむるいこのみのようちん

○うれ 塗吉二本よりうてくえ

風ふけぞれきつ〜ら居きるる心ようや君ゐひとうちゆ〜ん

一二のうハあるといえんうれ序まそ一それ意ハ新田山のやうちえれ道
いさう〜そいるゆくぐよるるるくよ心のちわるそ日られてよそ
うや君ぐひうちゆんさぞくうくとおそうくもちひうちうさん
いるほ〜さといるるん女の情りあれよすぐわるるちぐもうをちうん
新田山の道をちう〜ら八神武紀ニ趣龍田而其路狭嶮人不得
並行〜ゑえられぐく
ちうみうるをうこて〜かおうう〜みんてかうち〜をそさ
をさいよちびなうたう
ううむをぜんざいの中ようそうけるハ苦いうをよみてハおりあげそう
ふるるをうちうるゆうちんゆ本まれるうちうるうるうさうく

[illegible]

○をゝしくしてそべ　塗本にそべ

さてまた〳〵うれ高き安よさてゝれば[illegible]えそんふくをはらう

けり

心よくい侍るよいくゆしくくとそく枕冊子よ文すれこふゝとも

しくるもちそくふくれくるをおくべしちいうそべをはらて

ゝのゆくたなるふるよのあるやうよゝせろしるゝ

○さて　塗本ようてくハい

今いうちゝけて髪をうしらるまたあげておくれべやうなる女の

中むかしの女乃髪ハ日本書紀の天武天皇ゆきて婦女岳髪千背（スヘンモトウ　スルコト　ナカモトノ）稱故（ホモトノゴシ）とゝゝるすべしをゝゝふてそうゝる

續日本紀ニ令ニ天下婦女自非ニ神部齋宮ゝ人及老嫗皆髻髮ニ

とあれどもすべしをゝゝをするゝをまぢわるはちぶあるをばまぢき

もしてその世ゝなるゝのをゝるようゝゝらぶうゝん〻中昔のお

ゝぶゝにゝゝゝるやうれすべしをゝゝふて髪ゝぶゝるゝゝ大

ゝゝゝゝゝゝあるをうゝゝゝゝゝいう〻の髪あげゝゝはゝくゝ

ぎゆいてるゝ〻ゝたゝゝゝらるはゝゝゝぐるゝいやゝくもゝ

いなるゝゝゝあゝゝゝるゝゝゝゝゝゝ

耳ようあるたるてるもいろうるさそいやしたれ女などいうそるひられく
いそかしてはるよるようほしれば背にうるわるるをと額髮をとひるうる
かしらにまるにちげてかるふゆしてうるさちなるとさやうなるれる
うるるるるるる髮をあられば新のうるるるゆるものあれでたるるるるや
うるるる女のるるるるいちるばあるるるるばちるるるるるるるるあるるる
とるる女のるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
ひてさるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
をるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
おてるるるれるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
○るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

塗本にるるてくるるる

るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
うるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

和名抄に説文云七斛以取飯也和名賀比とるるるるるるるる取
てるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
笥子まそ仮るる器なる
さるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
とるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

まつるべくさぶらはんとて人をかはらうどの
ものいはんやうにてとをんやうと人をかはら
男をいふ
思ひうんといひ表ごとにさぶらはんとの事にぞさふ
きはせぬものいふのみよはかなくとおもひなるもんるかふとて
ひつぐぞをくいふをもるる
○をる塗車にをるぶ　ふるをるいはぐやをるべ　ぬるもあ
るそかるるる
るいるるぶ男すべなるにる
此限女のんぐんのすぐるるるとにるるめるの者ちあをよくかさ

わるるわるべて此物語は男も女をちるるぐんのるるれるすぐれ
ていやしたるるるいなるぬをるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
みなるるんのをるるるいるるるべき書なるかる
むるる男女るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
なるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
ちるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

日本書紀の孝徳天皇紀巻ヨ有妻妾為失被放之日経
年之後適他恒理而此前夫三四年後貪求後夫財物為
已利者甚衆ゑえて前夫の貧るるあるるるるるるるるるるるるるるるる

女はひとりを学ぶはわかべ紀をバ三年の後ちを男よまふ
そかくいうしへよりなどめなるとき又令云雖已成其夫没落外
蕃有子五年（謂稲子者男女同也若夫婦在同里而又相往来者即此無故三月不成類也）無子三年不帰及逃
亡有子三年無子二年不出者並聴改嫁ちれハ令の二ハ巻戸
令第八ハ又乃ちう指稚拙拙なるる令第三ようりて此
事をいへるをたぐとはてちなるふみやづくにそゆをちふて
令のとハ矣なれども如ちなるみをもうるなをバ三年の後ハ
やはの女のおりへるようよなんあるげる續日本紀ハ文武天皇ハ大
寶の比遣明法博士於六道（除西海道）講新令とうて令をいうて西
海道のくふとをとをさうをらるるうをるれうを女なるをそけいもも

さをほのるにハさうはうるんをそけうけん（弘仁格序ハ律以懲肅為宗令以勸誡為本とハかうまふと禁於未然令日令
ふハをハ天下ハくはふみきうをれぬべをなをかうしさるれどかくきやうにちをわうぐをするをなるけ
おうれるをわざをバ女のふうるやはふようかう古意ハ女
をほうて男ばるうふうれるふうれひをるうう三をせざか
ふるも身をるるはるをぬみやづくなれば男別をしをそるる和
いへうて男のわうをぐるくしたるふてをのはうぬるをおもぐ三と
せちばをもはうやうをそはうめるて行まうぐるるちとくはあんをち
ぐうをるハ女のはやまうくうう没落外蕃又逃亡なるれおもうぐた
ぐひよはあうぐ

○むうし男女　衣紋二本はまうぐふ　三をせまで書ようはまう

知本にうてくく

うれ男事わりなく此戸あけ給へとたゝくれどもでうをな
んようみて出し多うける
戸をあけで分をよくせいとぶ　さうりをうゝみ又お
男とうれていうひあんとちぶうけるくの事うんよりうふうさん
とうひさぶめうてまづ分をよくてもしうん
○うれ男　知本よりぶ　初んぢろいひるくめるを木に
つぶてたゝびかのとゝふべたあん
あゝむれ年のこゝをうちわびてうでうひうそふい枕をれ
けうゝむいまの枕詞まちわびてふまうせんうつたてかのオの

よふべなさにうひいことくとあひアくゝふるようをいうきんふいまゝ
ハ新枕まて男女はじめてあをふくさそかくうれのさアをけぶ
けぶうひ生うまて丹うれうのまておひいあぶにアもれくんおそ
きのれうれ女のうにうもえようぶうよいえそぢわしく
うひいぶじたうをれで
棒ラまゆこうれうをはてわぶせうぶうぶけうけうこせゝ
うれと次のうとハ一対の賜若みしてうにすぶ二ウハうをた
くよいうくく此分を神楽奇れうくへできれうたものを棒ラ戸
ゆこはさうしなこうれうくくとうをア分ふしてようるなわ
まづ分れうれをようくべしおこうてうくへでうまれしハま

さとのをさなかよりわけていふ所を捧をもゆくつれづれしのくそ
ひるましくよりてきくんよく分なるべくしられをもうて今はいろの主
を夫婦ともへぞひとりほうのやうあれども文づくるも出るほどのみ
まそもまくのうれるすもれしのびつまを捨てわづらはしく中
よくせーやうにえもの又のちはまようはしくせそといへるくさてわ
ぶやしはうれはしくくしてはるのもものびさまーうをのべてみ
のくらでかくちと男にあいんとらぶきをふく恨ひをえそう
上句ぶれくのうれるみはるつるまとへてそふをを本分の詞
まうりてうはくをとうおてあづさちまゆくつれうとしを
へてそそいつるくはるいちやうなるひさ丁に伝ふれども本分た

さくぶなをばやそてるくはるくされば臣分を初二句いうを
きそくよいうちらしはいきそれるべくかくれてこそうはれをを三
つ丁でそるのいるちろとさらえ此分よみのくくもぐくやみてふ
うくしたくるふもかまくべれ此上句を苦うるれえるくなー古
ほよいちそひくそのれをばえるよんのひくくいちんそちくくと
ひれ程動みをういは男のまにるれなもばみよくくくくらひた
えよいうをなくしれをむくうてちひをなもーるといれば
うあどられるまいばさやうなくんよいくとなくいちどふばきちば
なくにさいれくくしてちのををくつまてなくべくるをはのくめとる
ぜんくとくはるれる説どなくけの所は此分の初二句いるなふ

をみるさまにきこえたれさはて又三代實録三十三に卷ゑ下符
相模國令採進槻弓百枚云云信濃國梓弓二百枚但馬國檀
弓百枚備中國柘弓百枚（枚字三代実録の本よハ皆枝とあれども弓を百枝とハ
よべくもなきなれば誤字なれ枚なるべしれを改む）
とゝろゝえゝろゝ昔ハほゝよりきれゝゝのゆみをまれこそなりさ
といひていなんとしをれば女
ひづさゝゆひけどゝゝろゝど昔ようゝを君にようみしものを
されのゝをうけてちゝくゝるとゝをゝゝるとゝにをゝくゝもんハ君ゝゝ
ゝゝしものをえすくいなんとしゝゝふゝうゝめしゝゝいるくゝとふをか
くゝふゝくゝゝをゝゝにゝゝてゝけどゝゝるゝどゝハゝくゝよゝゝゝゝの
ゝゝなゝ男ゝゝゝよゝゝゝゝ

よいれをくるくるとまきこめばみをむすびんをてをちよいとくるんと云るぶぶ
ちゝのちして岩よりふを云つくるをきちしぬぐくかばえく
をくるわぐくおよびをくむてちをはやしたるるべしおよびをくで
指へ小指よりあらべ宇津保物語梅の花笠は巻よりかはる
むをくるよつりをわをようちをさしあやしておくるれつくるをて云
あるうされば水もしのぜちをるをふおよびのちしてもれうなるい
芳はりつるかくよ此時もうやうふはをうるをるくるくしつり
をやうちをさしはやはいれしてなるべしちてあるいをぶさう
ぎる文をそれよりきるどゆくるくおをおい来つるなれば
計をぶにべきるあらじくみもいてれよびをくむてちをあやし

くるなるくんをいくるくるをわぐ水ハ今ぞ消をぬ名ハ
はしい思いでをもあるくををぐるくるをわをいくばかりとぐるくるいもいでをなをぬるくををぐら
わをいくばかりとぐるくるいもいでをなをぬるくををぐら
えびしてわぐ身を今さえをるやうにぐやといふをくるあくを
なるくえくをぐるくるいとるえびををえをくめるいはゝるやうぐ
やくふをなるさいくるをまぐ消をぐるほにるあるうまれぐん
をれているぐにになるるけを
いるぐるなをいしるるをるる
○そふをるるれ　塗本なるるるぐ

廿四段

昔しし男はるるくをあるぐるもいをぐわけるる女のをくるぐるるる

ごとくにこひやうける

あいもさびはいづるもいひなるべくをなかもとおいぎよいろさ
けらあしわざくらうさんぐりうかとえいつをなれ中よさんだに
なくけうりぎよえゆをいつ肝断よあいづもいきぬものうさ
すぐにまさあうねくとくるをいてたぐうさんぐるとえいまろれる
け中そそうるるのうふつをそいるゆくあいづもいきぬぐすれ
ちちさんぐくるりうなくべうをむくの風流なうくるぐりく
うぐるく

秋の野　よさくわやし　朝の袖ようもうまでぬる夜ぞひぢぬうくれ

秋のあしあ聖けさくわくる秋をいてく歌ゆるくるものなれどそをよ

ものはをなれくるあいぐぬる夜ハ風よぬれ戸ちをいつるをうひぢハ
ぬるくふおりば

いろものくうれるゆうくし

ゆくるなれわぐ身をうくるをちろ孤ぐやうれなぐうけ世ふゆくくるば
所説此分初二句世をじうくうとたえるくなーれ流ぎうけて
なけどもいきぐを侍つくるる歌をそ但を下上よおうくしてらはべ
き松くく家身をみえなさ浦とをねばやとえるくみるあるさ浦
とあいぐふれ分くうくハたぐるるくるよわる詞のくなうと
いされき此説をそよく学えうう一をけをハうひぐふれお身とを
ものはるをみやれぐにあしのたゆさよ末わ行ものとえるくられを

みちのくなさ浦よりの白のうるあをとりにそふたとへてこそ

廿五段

むかし男五條わたりなる女をえんじなりてをるをわびさせる人のをとこの

これはある人男ありけれど君は又陸奥なりけるを女をえんじあり

ありしをりのうれとらでいとへてこそ詞を歌息のをふくいきわりうらぬるをわびうらをとこ男女をゆびしてよびをるをとこをとこ詞をいとへるをれをもわびうらをといへるをとこざかの内なるもの死なるをうちをしきものなれば人のをとこ

よくをとこをやみをほうぐどし古意よりはいとまをしてうちわるはさいたなをとこ呼ハ今よりてはをとこをひとりけるを人のなどいとをとこをとこをとこ

これ、秋のゆふべてむすびにまきたるは男は一枚きて又もぬいあぐ
けいろ〳〵たちぐれまぶ老こる秋のさこゝはけらこちたるゝかゝひきあて
こゝ夜いまれきあならひきをと一ものの後ちあそびにたちこゝぐさるゝ
うしまいらぶ所まとゝ〳〵ゝを知むすちのおれてまあらふ所る秋の
きてよべゝ男のえゝざ〳〵るかくて人老もえぐるゝかぶあぐ
人まあひそめゝゝるゆまと姫をさいまこと男とうゝみとくいたち
たちゝゝまうしをいまびしてみまたゝゝ文ゝをうまてゝゝゝゝ
らひのうゝなる貫箒をとりてなげこゝる人うの世まもたゝゝゝをう
なぎゝたゝとてするわゝぐれ
○おやたゝゝゝたて　とりてなげたてゝれば　蜜吉二本ふうてく、

（い）此段今の本に詞あまたたるものそ写えば
きたゝひの水よなくうげのえゝゝをうゝ
ぼまさゝをりてあをまゝそゝだかゝ時たゝまれてあをうくゝ器を
盥ゝくつゝさればうゝぶあをちゝさゝをうくゝ苔つぬれを
と、件をうゝたゝものゝゝそれをなげすをゝぶまゝるあゝゝ
またゝりてあゝゝなく新のえゆゝくゝゝゝと、かゝふ秋のたゝゝゝさ
まをいゝきゝぶれ、姫のゝゝあゝゝゝゝゝ人古をまゝゝゝゝと
云詞ちに用なゝゝゝゝゝ

恋のやもれるをかくいろなるをもひもいひもらるをもまそらを
ふる永ぢをハ我ほとゝをゝをゝへバのといとゝ分けらるをきてら
むべし古今集をゝをゝをゝをもしきくをわ日にの池乃そこふかれ
うゝをゝん日系ふるゝなれをあと思ひしをみまそらを山のそなゝで
いづる月を

ゝゝをゝをゝをゝをかのちぐわゝ男さゝて

○さゝて　塗本にしたゞく

みれにはをやゝゆゝんかゞゞさゝあ社をちふてをゝ苓ようなく
世ゝ社をハんれさゝをゝゞさゝあ社をこみてひゝゝハなゝゞゝゝ苓よ
ゆゝまゝゝまゝてわゞんををゝゝゆゝて君とゝゝになくゝゝゞゝ社象

新のたゝひのゝゝよゝゆゝふゞゝゝんゝハゝゝく社社きゝひのゝゝとゝ
いゝをを地ゝゝゝまてゝをゝゝゝゆゝゝゝれ口ゝをいゝゝたゝひ
社ゝハゝれ口のゝ社社ゝゝれゝゝゝ

同文庫